

平成29年度第5回滋賀県総合教育会議の結果について

会議次第

平成30年2月6日(火)

14:00～16:00

県庁北新館3階中会議室

議題

1. 平成29年度滋賀県総合教育会議の総括について
2. 平成30年度滋賀県総合教育会議に向けて

八幡高校書道部のみなさんに横断幕を書いていただきました。



本年度は年間を通じて、子どもたちの個性やその多様性に寄り添う教育について様々な観点から議論していくことを第1回会議にて確認され、計4回の会議を開催してきた。その内容を踏まえ、第5回会議では、事務局から平成29年度の総合教育会議の総括と、会議での意見を踏まえた今後の取組の方向性や平成30年度における主な施策について説明をし、意見交換を行った。

1. 各テーマの総括に対する主な意見

(1) カリキュラム・マネジメントの考え方【第2回のテーマ】

- ・カリキュラム・マネジメントは教育課程の編成に関することなので、子どもたちの個性に落とし込みにくいところではあるが、子どもたちの持つ多様な個性や力に合わせて目標を定め、実現に向けた教育課程を作るという点で重要である。

(2) 県として重点的に取り組むべき事項の明確化【第2回のテーマ】

- ・幼児期から高校までの各校種間の接続は、県として特に重点的に取り組む部分を明確にするべきではないか。
- ・子どもたちの力を育むということについても、例えば問題を読み解く「読む力」や子どもたちの体力などの健康面等、どの力を重点的に育んでいくのか明確にすべきではないか。

(3) インクルーシブ教育の考え方【第3回のテーマ】

- ・インクルーシブ教育については障害の程度があるので特別な方法をとるが、基本的な考え方は多様な個性を持った子どもたちが共に学ぶ環境を作るという全体総括のベースとなり得るものである。

(4) 社会背景を踏まえた家庭での取組の推進【第4回のテーマ】

- ・家庭における親子の会話や家庭教育の在り方を考えることは重要であるが、家庭に多くをかぶせてしまう事のないよう今後の議論の中で表現については再考すべきではないか。
- ・家中の人が働きに出ている中で、全ての家庭で子どもへの十分な教育ができるわけではないという社会背景についても考えていく必要がある。

(5) 教育の分野を超えた今後の取組の検討【第4回のテーマ】

- ・総合教育会議の場では、教育という垣根を越えて福祉と連携をしながら家庭での子育て支援を行っていくということも考えていく必要がある。

2. 全体総括に対する主な意見

(1) 平成29年度総合教育会議の全体総括に追加すべき視点

- ・多様な個性を育むということのみではなく、子どもたち一人ひとりの学ぶ力をつけるということや、生涯を通して学ぶ力をつけるという視点も盛り込んでいく必要があるのではないかと。

来年度に向けた論点

- ・カリキュラム・マネジメントの目標等をどのように県として、さらには学校として定め、取り組んでいくべきなのかさらに掘り下げて議論を行う。

- ・今年度総括した内容を、さらに学校現場に伝わりやすいものとするため、県として何を重点的に取り組むのか、子どもたちのどのような力を伸ばしていくのか明確化していく。

- ・一人ひとりの子どもたちの個性や課題に寄り添うという総括のベースとなるものとして、さらにインクルーシブ教育の視点を踏まえた議論を行う。

- ・共働きの家庭の増加等、社会的な背景も踏まえ、国の教育振興基本計画の「子育て支援」「親子の育ち」等の表現を参酌しながら、家庭にどのようにアプローチしていくのか議論する。

- ・総合教育会議の場においては、教育の分野を超え、子どもたちのために何が必要か、県全体の方向性を議論する。

- ・多様な個性を育むことに加え、子どもたち一人ひとりの力の育成や、生涯を通して学ぶ視点をどのように今後の取組の方向性に盛り込んでいくか議論する。

今回の会議で出た平成29年度滋賀県総合教育会議の総括に関する意見や、来年度に向けた論点等を踏まえながら、平成30年度は次期「滋賀の教育大綱」策定に向けた議論を行っていくことを確認した。